

ポスト・メルケルに向け動き出したドイツ

東京大学教授

森井裕一

次期CDU党首が決定、「メルケル後」が動き出す。

コロナ禍でメルケル人気は高いが、政権基盤は脆弱だ。

果たして、新党首は首相候補になれるのか。

AffDの凋落や緑の党の台頭などの情勢のなか、

ドイツ政治は民主主義的価値に回帰していくのか。

もりい ゆういち 一九六五年生まれ。九四年東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。専門はEU研究、ドイツ政治。琉球大学講師、東京大学准教授を経て、二〇五年より現職。著書に『現代ドイツの外交と政治』、編著書に『ドイツの歴史を知るための50章』『ヨーロッパの政治経済・入門』『地域統合とグローバル秩序』など。

メルケル首相が州議会選挙の大敗を受けて、キリスト教

民主同盟(CDU)党首を辞任し次の連邦議会選挙には出馬しないことを表明したのは二〇一八年一〇月末のことであつた。首相の座には二一年の議会任期満了までとどまる

としたものの、当時は次期CDU党首が決まれば早々に首相交代もありうるのではないかと臆測もあつた。ところが、その時から既に二年以上が経過したにもかかわらず、

コロナ禍という特殊事情もあいまって、世論調査でのメルケル首相に対する支持率は高く、ポスト・メルケルへの動きはつきりしなかった。

しかし、一月一六日には新CDU党首が選出され、九月二六日に実施される連邦議会選挙に向けて、いよいよポスト・メルケルに向けたプロセスが本格化し始めた。以下で

は、メルケル後継選出に予想外に時間がかかったドイツ政治の近年の展開を確認した上で、メルケル後のドイツ政治

が、どのようにEUの行方や国際政治に影響を及ぼすのかを検討していきたい。

コロナ禍とドイツ政治

前回二〇一七年九月の連邦議会選挙後、CDUは議会内で一つの会派を形成しているバイエルン州の姉妹政党キリスト教社会同盟(CSU)とともに、自由民主党(FDP)と緑の党の二つの政党と政権の形成を目指して連立交渉を行った。しかし、経済政策、環境政策、治安政策などさまざまな相違から、CDU/CSU・FDP・緑の党の連立交渉は決裂した。

その後、第一次メルケル政権（〇五～〇九年）と第三次メルケル政権（一二～一七年）に大連立政権を構成した社会民主党（SPD）との連立交渉が行われ、一八年三月になってようやく第四次メルケル政権が成立した。〇五年まではシュレーダー政権の与党であり、一九六〇年代末から八〇年代初めまでブランド首相、シュミット首相の下で与党となっていたSPDは、メルケル政権下の連立パートナーとして次第に党勢を失っており、二〇一七年選挙でも大敗したことから、政権を離れて野党としての独自色を出すことを望んでいた。しかし、他に安定して政権を構成できる政党の組み合わせがないことから、シュタインマイヤー大統領の仲介もあって、第四次メルケル政権に参画したのであった。

こうして、ようやく第四次政権を発足させることができたものの、一八年秋にはバイエルン州議会選挙でCSUが議席を減らし、さらにフランクフルトを擁する経済の中心地ヘッセン州議会選挙でCDUも議席を減らしてしまった。このため、〇五年一一月の発足以来の長期政権疲れを払拭するべく、メルケル首相はCDU党首を辞職し、次の連邦議会選挙では新しい顔を立てて選挙に臨む方針を示した。新党首には前ザールラント州首相のクランプカレンバ

ウアーCDU幹事長がメルツ元CDU/CSU議員団長とシュパーン保健相を破って党首となった。ドイツ南西部のザールラント州首相を務め、選挙にも強く、地元での人気の高さなどからクランプカレンバウアー党首には大きな期待が集まった。同党首はその後EU委員長となったフォンデアライエンに代わって国防相も兼任し、メルケル後継の地歩を固めるかに見えた。

しかし、クランプカレンバウアー党首は指導力を発揮して党勢を拡大することもできず、国防相としても課題の処理に追われ、当初の期待はしぼんでいった。さらに、二〇年二月にテューリンゲン州政権の連立交渉と政権構成をめぐる党内が混乱したことから、突如、党首辞任を表明した。テューリンゲン州では右翼ポピュリスト政党であるドイツのための選択肢（AfD）の支援を受けたCDUとFDPがFDPの候補を州首相に選出したことが大きな問題となっていた。暗黙であっても、AfDの支援を受けた政権構成の片棒をCDUが担ぐことになったことに対して、党内は紛糾していたのである。

この時期は、新型コロナウイルス感染症の拡大危機がドイツで社会経済生活に大きな影響を与えていた頃でもある。コロナ禍において、メルケル首相が科学的データを重

視して国民に訴えかける姿勢は高く評価され、また、ドイツは周辺のEU諸国と比べて死者数も少なく、医療崩壊に至らなかったことから、長期政権末期になってメルケル首相の人気は急回復し、次の指導者への期待はしぼんでいった。

二〇二〇年四月に予定されていた党首選は一二月に延期され、さらに大きな第二波の影響で再度延期された党首選は、今年一月一六日になってようやくオンラインで開催された。ドイツの政党法は党大会開催などについても規定しているため、オンライン投票のみならず、郵便投票によるオンライン投票結果の確定が必要との解釈から、CDU党首は一月二日に確定された。こうして連邦議会選挙の年の初めに、ようやくラシエツト・ノルトラインウエストファーレン（NRW）州首相がCDU党首に選出された。

CDU新党首は首相候補になるか

CDU党首選は西部NRW州出身の五〇代から六〇代の男性三人で争われた。メルツ元CDU／CSU議員団長は、二〇〇〇年代の前半に野党時代のCDU内でメルケル党首と折り合いが悪く、一時は政界を引退し経済界に移っていた。一八年の党首選で政界に戻り、クランプカレンバウ

アーに敗れたものの、特に保守層に新しい経済政策を訴え支持を広げてきた。レトゲン元環境相は連邦議会外交政策委員会委員長としてCDU内のリベラル派の一定の支持も得た。しかし、ドイツ最大の人口規模を有する大州であるNRW州の現役首相であり、メルケル政権の政策運営を地方から支え、政策の継続性を訴えたラシエツトNRW首相が地方代議員によるCDU党大会の投票で党首に選出された。一六の連邦州から構成される連邦制をとるドイツにおいては、州レベルの政界で実績をあげ、選挙に勝利し、政策運営に係わった実績が重要な背景となったといえよう。

CDUの新党首が決定しても、ただちにCDU／CSUの首相候補となるわけではない。CDU党首の可能性は高いものの、情勢によつては、バイエルン州首相でコロナ禍対応でメルケル首相と並んで評価の高いゼーダーCSU党首やシュパーン保健相など、選挙戦で有利になりうる者がCDU／CSUの首相候補となる可能性も排除できない。

近年のドイツにおける社会や経済の構造変化は、AfDの登場が象徴するように、政治にも大きな影響を与えてきた。メルケル首相は一五年の難民危機の後に寛容な難民政策を批判され、AfDが一七年選挙で二二・六%も得票して連邦議会に多数の議席を獲得する背景となった。AfD

はもともと反ユーロを掲げた政党であったが、難民危機の直前の内紛以降は右翼色を強めた。しかしその後、議会内では特に成果をあげることはなく、またコロナ禍対応の評価が低いために最近のほとんどの世論調査では一〇％前後の支持しか集めていない。議会内のどの政党もAfDとの協力は拒否しており、今後ともAfDの影響を排除して、いかに安定した連立組み合わせが可能かを模索することとなる。

移民・難民政策では、最もリベラルな緑の党からCDU／CSUの保守派まで、政策距離はかなりある。同様に、家族・社会・女性政策など、中道政党の中でもリベラル派と保守派の違いが大きい政策分野でどのような政策展開をするか、次の首相の手腕に期待される。広範な支持を集めるためには、中道保守政党としてメルケル首相の政策を継承しつつAfDに流れた保守層も取り戻さねばならず、治安や移民政策分野での成果は不可欠である。

ドイツ政治を展望するとき、退潮著しいSPDに代わって支持を拡大している緑の党の動向に注目する必要がある。緑の党の進める環境政策、とりわけ地球温暖化対策に関する政策は、産業政策との兼ね合いで、運営にあたっては難しい現実的判断を求められる。メルケル政権において

も温暖化ガス排出で大きな問題となる石炭エネルギーからの脱却の道筋が規定されたが、石炭採掘産業の廃止は、中長期的目標であっても地元 to 大きな影響を与えるため、政治的に極めて難しい決断であった。

このようなグリーン化の方向性は変わらないとしても、そのスピードの違いがドイツ政治の今後を大きく規定することになる。もともと、緑の党は一九九八―二〇〇五年のシュレーダー政権での与党経験もあり、また、今年一月現在、一六州のうち一一州の政権に参画していて、バーデンビュルテンベルク州では一年から州首相を出している。緑の党の政権への参加は確かに環境政策に刺激を与えるものの、既に現実的な政策運営の経験も豊富であることから、極端な変更にはならない可能性が高いであろう。

緑の党の二人の共同党首、ハーベックとベアボックのどちらが首相候補として選挙戦に臨むかは未定であるが、どちらの候補もこれまでの緑の党の指導者以上に幅広い支持を集めるであろうし、ドイツ政治のキーパーソンとなる可能性すらある。環境問題のみならず、寛容で開かれた民主的社會を指向する緑の党は、現実的政策展開に成功すれば今後のドイツ政治のゆくえを強く規定することとなる。もともと、緑の党はSPDと政策的に近いが、SPDの長

期低落傾向を考えれば、この二党での政権獲得の可能性は低く、左派党は地方政治の連立相手となり得ても、外交・安全保障分野での政策の違いから政権への関与は考えにくい。

CDU/CSUと緑の党だけでは過半数に達しない場合、二〇一七年選挙後と同様にジャマイカ連立としてFDPが関与する可能性もあるものの、CDU/CSUはFDPと政策の距離は近いが、FDPの党勢は停滞しており、さらに一七年の連立交渉打ち切りの記憶もあって、二一年選挙でどの程度影響力を回復できるかは不透明である。

SPDは長期低落傾向から抜け出せないでいる。一七年の連邦議会選挙で過去最低の二〇・五%という得票率となつた責任をとつてシュルツ党首が辞任し、ナーレス党首が党勢回復につとめたが、一九年の欧州議会選挙の大敗を受けてナーレス党首も辞任し、一九年一二月にはエスケンとボーヤンスの男女二名による共同党首体制となつた。しかし、SPDの世論調査の支持率は二〇%に届かない低迷状況が続いている。このため党首選で敗れたものの、政治家個人としては人気の高いシュルツ財務相が、連邦議会選挙時の首相候補者として二〇年八月に決定されている。

SPDの問題は、二〇〇〇年代前半の労働市場の柔軟化をはじめとする経済の構造改革に端を発するものである。

シュレーダー政権期の政策によって、公平、労働者の権利、社会福祉を政策の柱とする社会民主主義的政策から逸脱したと認識した党員はSPDから離れていった。このトレンドを覆すことは難しそうである。

ポスト・メルケルの対外政策

CDU党首が決まってもなお、二〇二一年のドイツの政局の行方は不透明である。それは連邦議会選挙の他にも政局に大きな影響を与える可能性のある州議会選挙が六つも予定されているためである。三月にはバーデンビュルテンベルク州、ラインラントファルツ州、六月にザクセンアンハルト州議会選挙が予定されており、九月の連邦議会選挙と同日にベルリン、メクレンブルクフォアポメルン、テューリンゲンの三州で選挙が予定されている。連邦制をとるドイツでは、州政府の代表が連邦参議院という特殊な第二院を構成しているため、連邦参議院と国民から選挙で選ばれた連邦議会が協力しなければ多くの法律が成立しない。市民生活の制限や学校の運営などは州の法的権限下であり、コロナ禍の危機対応で見られたように、連邦政府と一六の州政府の協力は不可欠である。

国内政治の行方から不透明感は拭えないが、対EU政策

や外交政策に目を向けると、これまでのドイツ政治の継続性は、政党間の基本路線には大きな差がないため、維持されると考えられる。ラシェットCDU新党首はメルケル首相の路線をはっきりと継承するであろう。ベネルクス諸国に接するNRW州でのEU政策の実績は十分であり、一九九九年から一期、欧州議会議員の経験も有している。CDUを中心とした連立政権が構成されれば、戦後ドイツが一貫して重視してきた欧州統合と大西洋同盟を二つの柱として、国際機関における多角主義外交を展開する路線からの逸脱は想像しにくい。

対口関係、対中関係などドイツを取り巻く外交環境は厳しさを増しているが、ドイツ経済を担う産業拠点でもあるNRW州での経験から、経済と外交原則のバランスにも腐心するであろう。メルケル首相は二〇二〇年後半期のEU理事会議長として、EU中国投資協定の基本合意に至った。ドイツが中国との経済関係を重視する姿勢は変わらないであろう。もちろん、人権問題や企業買収問題などで、対中認識は非常に厳しくなっている。さらに、緑の党が政権に参加すれば、法の支配や人権の問題、さらには環境政策と係わる外交分野では、より厳しい姿勢が強く出されることになる。それでも、現実的な対応路線から完全に転換す

ることは想定しにくい。

バイデン政権の米国との関係修復、強化にはより積極的な姿勢が明確となろう。メルケル政権も残された時間の中で、安全保障分野、貿易分野などトランプ政権下で傷ついた関係を修復に力を注ぐであろうし、米EU包括的投資貿易協定(TIIP)交渉の再開への期待は既に高まっている。

EU復興基金の交渉に代表されるように、メルケル首相はEUの行方にかかわる重要な指導力を発揮してきた。一六年間ドイツを率いたメルケル首相の存在感を国際的な舞台で補うことは、ドイツの次の指導者が誰になっても容易なことではない。

九月の連邦議会選挙に向け各党は独自色を出すべく論戦を戦わせるが、選挙後に単独で政権を担える政党はないので、必ず連立交渉が行われることになる。連立交渉で詳細な合意文書を作成するドイツ政治のプロセスには、不確実性を下げる効果がある。選挙の年、二〇二一年を経て登場するポスト・メルケルの指導者が誰になるかは不透明であるとしても、ドイツ外交の展開は、民主主義や法の支配の推進という基本的価値の尊重と、これまでに確立された多角主義重視などの行動原則に基づいた路線からぶれることはないであろう。●